

なぎなた競技は剣道のように防具を着けて行う。7年前から男子の全国大会も開かれるようになった。



「なぎなた」と縁が深い伊丹

伊丹は「なぎなた」との縁が深い。2020年の歴史を持つ日本三大私設道場の一つ「修武館」（伊丹市西台3）があり、全日本なぎなた連盟の本部も置かれている。

修武館は1786（天明6）年、小西酒造の当時の当主だった小西朝巴が近衛家の領地であった伊丹町の治安維持を計るため、領主に請願して私設道場を創設したのが起源だ。

明治維新で武道が廃止され、これに不安を抱いた11代当主・小西業茂が道場を一般に開放。1885（明治18）年「修武館」と名付け、初代館長になった。



はんしん
58

写真・文 山田哲也

修武館

同館は一流の師範を迎え、なぎなたや剣術をはじめ、柔道、槍術、馬術、水泳などを教えた。なぎなた師範に天道流第14代宗家・美田村頭教を招請し普及を図った。

第二次世界大戦中、道場は取り壊された。戦後、占領軍により武道が禁止された時期もあったが、1950（昭和25）年、酒蔵の土間を改造して全国で初めて剣道場を再開したという。62年に現在の場所に道場を新築し、なぎなた、剣道、居合道の指導を続けている。なぎなたは古流・天道流と剣道のように防具をつけて行う競技のクラスがあり、6歳から83歳まで約70人が稽古に励んでいる。

一昨年、のじぎく国体では同市が試合会場になり、修武館のメンバーで構成された兵庫県チームが総合優勝を果たした。

阪急伊丹駅下車、徒歩5分。問い合わせは07-772-3333。

